

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル (建築環境総合性能評価システム) ■ 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名鉄協商新駐車場センター建築計画	階数	地上8F
建設地	愛知県名古屋市中村区名駅南三丁目304番、305番、306番、307番、308番1、329番1、329番2、330番、331番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	509人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年4月 予定	評価の実施日	2025年11月15日
敷地面積	3,017 m ²	作成者	
建築面積	757 m ²	確認日	2025年12月12日
延床面積	5,226 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 78% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外のオンサイト手法 78% (46 kg-CO₂/年・m²)

④上記+オフサイト手法 78% (46 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 3.0)

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 2.9)

Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 1.9)

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.9)

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.1)

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.3)

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。	特になし。	
Q1 室内環境 開口部遮音性能:T-2以上。 そして、照度が500lx以上1000lx未満。 また、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	Q2 サービス性能 リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上。 そして、0.1≦[壁長さ比率]<0.3。 また、電気配線は空配管内に設置されます。	Q3 室外環境 (敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー BPI _m =0.79。 そして、BEI _m =0.69。	LR2 資源・マテリアル 節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 そして、OAフロアを使用している。 また、ODP=0.GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率78%。 そして、燃焼機器を使用していない。 また、光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの全ての配慮事項を満たしている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



重点項目スコア・結果シート

(仮称)名鉄協商新駐車場センター建築計画

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	4.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.7
	
2. 自然共生	評価点 = 1.3
	
3. 循環型社会	評価点 = 3.0
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。